

配布資料/公開Version

機関リポジトリ入門

竹内 比呂也

(千葉大学文学部助教授 / 附属図書館ライブラリー・イノベーション・センターリサーチフェロー)

2006.10.20/11.17

大学図書館職員講習会

本日のあらすじ

1. 機関リポジトリの背景にあるもの
 1. 科学コミュニケーション
 2. オープンアクセス運動と関連する諸政策
2. 機関リポジトリの現状
3. 大学図書館機能と機関リポジトリ
4. 今後の課題

科学コミュニケーション再考

※ 科学コミュニケーションの特徴

- ※ 「研究者の研究者による研究者のため」のコミュニケーション

- ※ 「フォーマル」コミュニケーションと「インフォーマル」コミュニケーションの峻別

- ※ 学術雑誌の独占的な地位

<このような特質は今も保たれているだろうか？>

シリアルズ・クライシス

- ✧ これは学術情報流通システム全体にとっての危機ではなかったか？
 - ✧ これに対する対応策
 - ✧ ビッグディール
 - ✧ 「代替雑誌」 オープンアクセス出版
 - ✧ オープンアクセスアーカイブ / 機関リポジトリ

ビッグ・ディール(*Big Deal*)

- ✧ 電子ジャーナルの登場によって可能になったビジネスモデル
 - ✧ コンソーシアムへの脚光 < 図書館協力の形態としての再認識 >
 - ✧ 結果的にはわが国の国立大学附属図書館におけるILL依頼件数の減少をもたらした
 - ✧ もはややめられない(!?)ただし常に価格の上昇との戦いの中に図書館はおかれている

SPARC

- ✧ ARLによって1998年に創設
- ✧ 「代替雑誌」の刊行
 - ✧ 従来の「学術雑誌」の枠の中での変革
 - ✧ しかし結局は図書館が買わなければならないタイトル数を増やしただけ??

>>>オープンアクセス運動の支援へ

オープンアクセス

- ✧ 様々な定義される
- ✧ 「学術論文への障壁なきアクセス」
(by 尾城孝一)
 - ✧ アクセスにおける障壁の除去
 - ✧ 利用における障壁の除去
- ✧ 2002年のBudapest Open Access Initiatives以降、活発な展開

オープンアクセス

- ✧ 学術研究にかかわる様々な人たちの
関与：ステークホルダー
 - ✧ 政府 / 研究助成機関
 - ✧ 大学 (図書館)
 - ✧ 研究者
 - ✧ 出版社 / 学協会
 - ✧ 二次情報サービス機関

オープンアクセスを巡る政策的動向 (米国)

✧ 米国下院歳出委員会

- ✧ 2004年7月 NIH (National Institutes of Health) の補助金によって行われた研究成果のPubMed Centralへの登録義務化案
- ✧ 2005年2月 「2005年5月以降、12ヶ月以内に著者の最終稿を登録することを『要請』する」(義務化ではない)

オープンアクセスを巡る政策的動向 (英国)

- ✧ 英国下院科学技術特別委員会
 - ✧ 2004年7月 学術雑誌の価格問題とオープンアクセスに関する調査報告
- ✧ Wellcome Trust
 - ✧ 2005年5月 助成を受けた研究成果を米国のPubMed Centralが創設提案されたUK PubMed Centralへの登録義務化へ(2006.10.1から)
- ✧ 英国研究評議会連合(Research Councils UK)
 - ✧ 2006年6月“Updated position statement on access to research outputs”公表

オープンアクセスを巡る政策的動向 (日本)

- ❖ 第3期科学技術基本計画(2006.3.28閣議決定)
 - ❖ さらに、我が国の研究情報の蓄積を資産として国の内外に発信できるよう、論文誌等の電子アーカイブ化支援を進める。
 - ❖ 研究者が公的な資金助成の下に研究して得た成果を公開する目的で論文誌等で出版した論文については、一定期間を経た後は、インターネット等により無償で閲覧できるようになることが期待される。

オープンアクセスを巡る政策的動向 (日本)

- ❖ 「**学術情報基盤の今後の在り方について**」(科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会報告)(2006.3.23)
 - ❖ **学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について**
 - ❖ **我が国の学術情報発信の今後の在り方について**

オープンアクセス実現の方策

- ✧ 学協会(出版社)の対応
 - ✧ オープンアクセス雑誌
- ✧ 研究者の対応
 - ✧ 自分のwebページでの公表
 - ✧ 主題別e-print Archive
- ✧ 図書館の対応
 - ✧ 機関リポジトリ

オープンアクセス雑誌

- ✧ 世界で2,401誌 (2006年10月1日確認、 *Directory of Open Access Journals*による)
- ✧ 「著者支払いモデル」
 - ✧ BioMed Central(2000～、著者支払いモデルは2002年から、また機関会費制の併用)
 - ✧ PLoS Biology(2003～)
- ✧ 部分的なオープンアクセス雑誌は他にもある (バックナンバーの無料公開)
 - ✧ Highwire Pressなど

わが国のオープンアクセス雑誌

- ✧ 研究紀要：302誌 (名古屋大学附属図書館による)
<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/db/kiyou/>
- ✧ J-Stage：245誌中189誌に”Free”印

主題別e-Print Archive

- ✧ 1991 Ginsparg(ロスアラモス国立研究所)によって始められたarXivが始まり。現在はコーネル大学にサーバ設置。
 - ✧ 高エネルギー物理学等では定着(もともと物理学分野はプレプリントによる情報流通が機能していた分野である。)
 - ✧ あくまでも研究者の「自発的な」活動に過ぎない。

機関リポジトリ

✕ 2002 SPARC

- ✕ “The Case for Institutional Repositories”(position paper)
- ✕ “SPARC Institutional Repository Checklist & Resource Guide”

「大学とそのメンバーが作り出したデジタル資料の管理や普及を行うために、大学がそのコミュニティに対して提供する一連のサービス」(Clifford Lynch)

機関リポジトリの役割(SPARCによる)

✕ 学術機関が直面する二つの戦略的課題への強力な対応：**大学にとって必要なもの**

1. 研究へのアクセスの拡大し、学問のコントロールを学術社会の手に取り戻し、機関や図書館の関与度を高めることにより、学術コミュニケーション・システムを改革する重要な要素。
2. 目に見える大学の指標として役立たせ、研究活動の科学的、社会的、経済的な妥当性を実証し、それによって大学の認知度、地位、社会的価値を高めるための潜在的能力を持つ。

(邦訳：高木和子)

機関リポジトリの特徴

- ✧ 「機関」であることの意味
 - ✧ 永続性
 - ✧ 安定性
 - ✧ リポジトリの存在そのものがフォーマルな性格を帯びざるを得ない。(vs 主題別e-print archive)
- ✧ 相互運用性が求められる

機関リポジトリの現状

- ✧ 全世界で746のオープンアクセスリポジトリ (2006年10月1日現在)
(<http://archives.eprints.org/>)
- ✧ 多くが図書館を中心に形成している
- ✧ 日本の18のリポジトリが登録されている

機関リポジトリの現状

- ✧ 一つ一つのリポジトリに蓄積されている情報量はまだ少ない
 - ✧ カリフォルニア大学e-scholarship: 14,179件(2006.10.1現在)
 - ✧ 何を蓄積するかについての認識にもかなりばらつきがある
 - 「自発的」な登録に期待できるか？
 - 「制度化」が必要？(できるか？)

わが国の機関リポジトリ

- ✧ CURATOR < 千葉大学 > が日本最初の機関リポジトリである。
 - ✧ 2002年度に計画開始 (図書館にワーキンググループ設置)
 - ✧ 2003年度「学術情報発信のための協力者会議」(教員 + 事務局)
 - ✧ 2004年度に公式運用開始
 - ✧ 2005年度一般公開
 - ✧ 登録件数 : 2,293 (2006.10.1現在)

*CURATOR*の特徴

- ✧ ボトムアップ型開発
- ✧ 独自のシステム開発(OAI-PMHには準拠)
- ✧ 論文のみならず、ファクトデータなども収録対象にする
- ✧ 「オーバーレイジャーナル」の存在
- ✧ 学内外のデータベースとの連携

わが国の機関リポジトリ

✧ NIIとの連携事業

✧ 2004年度6大学

✧ 2005年度19大学

✧ 2006年度57大学(公募による選考)

✧ 各大学のリポジトリ構築だけでなく、これまでのリポジトリ構築において問題となってきた事項について、その解決に向けた事業を実施

出版社/学協会

- ✧ 当初リポジトリに対して拒絶的態度
機関リポジトリへのプレプリント、ポスト
プリントを登録を認める雑誌の増加
大手出版社雑誌の「グリーンジャーナル」
化

グリーン・ジャーナル

- ✧ グリーンジャーナル<Green Journal>とは著者最終版(Author's final version)の機関リポジトリ登録が認めている雑誌
 - ✧ SHERPA / RoMEO projectによれば、94%がグリーンジャーナルである。(2006年10月1日確認)

SOURCE: <http://romeo.eprints.org/stats.php>

出版社 / 学協会

- ✧ NIHのパブリックアクセスポリシーに対するElsevier社の対応
 - ✧ 2006.2 NIHが資金提供した研究の成果について、Elsevierが著者に代わってPubMed Centralへ登録することを表明
 - ✧ Wellcome Trustが資金提供した研究の成果について、1論文あたり\$3000でオープンアクセスを可能にする。

情報サービス機関

- ✧ 機関リポジトリを対象とした情報サービスの展開
 - ✧ JuNii
 - ✧ OAIster
 - ✧ WebCitation Index
 - ✧ Scirus
 - ✧ Google Scholar

まとめにかえて

- ✧ 現状ではオープンアクセスの様々な動きは従来の学術情報流通システムに劇的な変化をもたらすほどの存在になっているとは言いきれない。
- ✧ しかし、機関リポジトリは増えていくと思われる。なぜなら、**大学のアカウントビリティ**に対する要求はますます高くなると思われるからである。

学術情報共有化の基盤としての 機関リポジトリ

- ❖ 科学コミュニケーションの変革という観点から見ると、機関リポジトリが潜在的にも持つ可能性はかなり大きいのではないか？
 - ❖ オーバーレイジャーナルの展開可能性
 - ❖ “Open Data”:論文だけでなくデータの共有化の可能性
 - ❖ 教育用データの蓄積と利用の可能性
(コースウェアとの連携)